



平成26年11月

創刊号

 上山市消防団
 活性化推進委員会
 発行


消防団長

菅沼 誠 司

このたび、上山市消防団の活動を市民の皆様にお知らせするために、消防団の広報誌を作成いたしました。創刊にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

私たち消防団員は、市民の「生命・身体・財産」を守るべく活動しています。また、各種訓練や災害を未然に防ぐための広報や巡回、防火指導なども行っています。

現在、上山市の消防団員数は条例定数791名に対し752名、団本部、10個の分団、ラッパ隊で編成され、市民の「安全・安心」の維持、確保に努めております。しかしながら近年、少子化や就労形態の変化で団員の確保が困難な状態が続いており、このような状態を解消するために、消防本部と連携し平成24年に団員が市内の飲食店や商店でサービスを受けられる「消防団サポート事業」を開始、また、今年2月には「消防団サポート自動販売機」の導入を行い、入団の促進や確保、地域の活性化を図っているところであります。

消防団は地域防災の要として、重要な役割を担っております。

この広報誌を通して消防団の活動をご理解いただき、今後もなお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。創刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

第1分団 (本庁地区南部)

分団長 濱田 益男
副分団長 小松 正和
以下82名

第1分団は、二日町・石崎河崎・矢来・長清水・金生消防団の5部で構成され、ポンプ車2台・軽積載1台・可搬ポンプ2台が配備されております。



住宅地から商業施設まで多くの建物が密集する当地区では、日ごろより防災意識を持ち、

予防消防を呼びかけ、操法訓練夜回りと地域の方々に密着した消防団を志しております。

特に消火活動の基本となる「操法」においては、今年度の市制施行60周年記念大会で長清水が優勝！一昨年も金生が優勝するなど、団員の消火に対する意気込みが感じられます。

今後とも地域の皆様方の安心安全、財産保護の為、団員一丸となって活動してまいりますので、今後ともご理解、ご協力よろしくお願い致します。

第2分団 (本庁地区中部)

分団長 井荻 好記
副分団長 會田 康彦
以下61名

第2分団は、上山市中心部、上山城の付近を担当しています。城の付近には、新湯・湯町と言っ昔ながらの温泉街があります。

第2分団では、照明車・ポンプ車・積載車・軽積載車と様々な車両が配備されております。火災や災害時には、この車両と団員で、上山の中心部を守ると言う意気込みです。また、第2分団には女性の団員が所属しており、上山の消防団の中でも、女性ならではの気配りが出来来ます。

これからも、地区民みんなの為にがんばりますので、よろしくお願い致します。



第3分団 (本庁地区北部)

分団長 加藤 広幸
副分団長 井上信一郎
以下49名

第3分団は、本庁北部で構成されております。また、山形市と接しているので久保手・金瓶は山形市への応援出動もしております。

以前、火災出動し現場から戻るとき、地区民から我々のポンプ車に向かって手を合わせお礼を言われた時がありました。その時、先輩から言われてきた「自分たちの地域は自分たちで守る」この事だと実感しました。今後とも地域住民の「安全」「安心」のため予防消防に徹したいと思っております。



第4分団 (西郷地区)

分団長 松田 信朋
副分団長 中村 領平
以下95名

第4分団は、上山市の南西部に位置し、西郷地区に葉山を加えた地区で構成されています。

もちろん訓練や行事の参加も積極的に行っていますが、分団幹部同士の連携を強めることが分団内の結束につながるという思いから、懇親会や部長会を定期的に開催し情報の共有化を図っています。

災害発生時の分団内での連携も目的意識を持つて考えています。しかし、近年の災害が想定を超えることもあり今後の課題になっていきます。

最後になりますが、地域のために積極的に活動している団員にご理解とご支援をお願いいたします。



第5分団 (本庄地区)

分団長 佐藤 智則
副分団長 伊藤 隆広
以下79名

第5分団は、比較的若い団員から中堅・ベテランまでバランスがとれている分団で、上山を代表する果樹生産地帯に位置し、農業に従事する若い後継者の団員も多いことから災害発生時の対応は心強いものがあります。

また、地区の行事へ参加しており、中でも10月に本庄地区をあげての羽州街道飛脚駅伝・街道まつり大会に協力しています。

地区のみなさんとの交流でより良い地域作りのため消防団活動を行っていきます。

“一致団結”



第6分団 (東地区)

分団長 井東 孝浩
副分団長 木村 郁生
以下60名

第6分団は、管轄地区に宮川小学校・宮川中学校などがあり、地域の方と協力しながら万に備え訓練をしています。

活動の内容としては、防火水槽の点検整備、夜の巡回警備、地区運動会参加、夏祭りの警備など安心安全を第一に考え災害の少ないまち作りを行っています。

6分団では、年一回団員全員で、懇親会を行い親睦をはかり団結の輪を広げています。

今年は、新入団員4名が加わり若いメンバーが増えました。積極的に指導し頑張っています。



第7分団 (富地区)

分団長 笹原 充博
副分団長 木村 竜一
以下48名

第7分団は、毎年新規入団者の勧誘に力を入れており、若干名ではありますが団員が増えております。

さて、近年の異常気象や災害による現場で活動をする消防団



への関心が高くなってきていると思われ、このような災害時にどれだけ迅速に行動できる

かが課題でもあり、一番に求められていることだと考えております。その為に最近では消防団主導で、地区会や自主防災会と地震や災害を想定した合同訓練も行っております。

今後も火災予防・広報活動を徹底し、地域一体となって消防団活動に努めていきます。

第8分団 (中川地区)

分団長 鏡 吉則
副分団長 齋藤 徹
以下143名

第8分団は、上山で最大の管轄地域と団員数を有する一番大きな分団となっております。

我々は、消防活動はもちろん、地元根付いた活動に力を入れております。

防犯協会への協力、老人世帯の雪下ろし、福祉施設との連携、福祉村行事への協力など、地区民全てが安心・安全に生活できるように、今後も中川地区の守り人となり活動をしていきます。



第9分団 (中山地区)

分団長 佐藤 広幸
副分団長 平塚 毅
以下46名

第9分団は、市の中心部から少し離れており地区民の災害に対する危機意識が強く、日々消防団と、自主防災会との連携が欠かせない地区となっております。

団員は、若手が多く結束力もあり、中山地区の郷土を守る為にも、日々訓練に励み、消防団員としての誇りを持ち頑張っています。

これからも、自分達の地区は自分達で守るという消防精神で地区民の安心 安全のために活動していきたいと思えます。



第10分団 (山元地区)

分団長 伊藤 三広
副分団長 大宮 修
以下65名

第10分団は、国道348号を幹線道路とし、積載車1台・軽積載車2台を配備し、八つの地区を管轄しています。

世帯数・人口・子供の減少により、若い団員がなかなか入らず、団員の高齢化が進み、厳しい分団運営ではありますが、親子での団員など地区民の全面的なバックアップを得て、積極的な消防団活動をしており、地区全体を見守っています。

有事の際の団結力・絆の強いのが我々第10分団です。



ラッパ隊

(国本部付 上山市全域)

隊長 一柳 浩昭

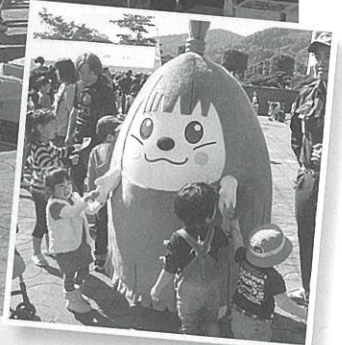
副隊長 細川 一広

以下14名

(男性7名 女性4名 兼務3名)

私たちラッパ隊は、トランペット・スネアドラム・バスドラムの3種類の楽器で構成され消防出初式や春季消防演習などの式典で演奏し、団員の士気を高める役割を担っており、毎週木曜日19時30分～21時00分(月の最終木曜除く)消防本部に隣接する中部コミュニティー防災センター2階で演奏の練習をしております。また、災害現場では本部員として情報収集等に当たり、現場で活動する団員を支援する任務も担っております。

式典演奏と現場活動の2つの顔を併せ持つラッパ隊ですが、今後とも市民の皆さんの為に頑張っていきたいと思えます。



消防団

フェスティバル

消防団員相互の親睦、消防家族との交流、ご協力頂いている市民の皆さまへの感謝、そして、未来の消防団員確保の為に、10月19日(日)市民公園集合広場において、上山市市制施行60周年記念「第一回消防団フェスティバル」が開催されました。

当日は、秋晴れの下、多くの皆さまからご来場して頂き、盛大に開催することが出来ました。

各分団で独自にアレンジされた料理、ちびっ子達の放水体験や救命講習、ストリートダンスやミニコンサート等、短い時間でしたが笑顔の絶えない催しとなりました。

これまで、ご協力して頂きました上山市、消防関係の皆さまに心より感謝申し上げます。有り難うございました。

消防団員募集

自分たちのまちは自分で守る。
地域防災のリーダーであるという
誇りを胸に、多くの人が自分の仕事
を持ちながら活動しています。
あなたの入団をお待ちしています。

問合せ：上山市消防本部 庶務係
電話 023-672-1190



編集後記

広報誌「まもる」いかがだったでしょうか。創刊号にあたり、各分団の紹介。また、初めて開催した消防団フェスティバルを掲載しました。

今後も、消防団の活動・話題を提供していきたいと思っておりますので、皆様からのご愛読よろしく願います。

鍋の美味しい季節となりました。例年、住宅火災が多く発生する時期です。火の元、暖房器具の取り扱いには十分注意してください。火の用心『カン、カン、』